

国立天文台すばる資料室アーカイブズ

野口 邦男 国立天文台
(総研大天文科学専攻)

1. はじめに

国立天文台には残念ながら天文台全体としての史料室または資料室というものは無い。しかし、国立天文台の一部局であるハワイ観測所プロジェクトには、すばるの共同利用を支援する組織として三鷹キャンパスにすばる室があり、そこにすばる資料室がある。すばる資料室では、すばる計画に関連する資料を整理、保存している。すばるの建設は1991年から始められたが、すばるに関わる諸種の検討は1980年以前からすでに始められ、それらの資料も集められている。

すばる資料室について、詳しくは総合研究大学院大学（総研大）のプロジェクト「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」の活動成果の一つである出版物「共同利用機関の歴史とアーカイブズ2007」の75～85頁に詳述されているので、詳しくはそちらをご覧ください。ここではすばる資料室の特徴を簡単に紹介させて頂くことにする。

2. すばる資料室

すばる望遠鏡建設計画が進行する中で、国立天文台三鷹キャンパス内に、すばる計画を支援するために解析研究棟が建設された時（1998年）にその棟の3階にすばる資料室が設置された。

すばる資料室の床面積は $8.9\text{m} \times 10.2\text{m} \doteq 91\text{m}^2$ である。室内の収納棚は、32cm（高さ） \times 430cm（長さ） \times 6段 \times 19列で総延長が約490mあり、可動式となっている。

資料の中では、紙資料の他に画像資料（静止画及び動画）の重要性も

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

大きく、すばる資料室にはフィルムスキャナーやビデオデータ編集機材等も備えられている。

3. すばる資料室の性格

すばる資料室には、これまで主に二つの役割があった。一つは、すばる望遠鏡による共同利用支援のために、望遠鏡のメンテナンス作業に必要な資料等を素早く取り出せるように整備しておくことである。このために、すばる建設を請け負った三菱電機が作成した技術資料と富士通の作成した計算機関係の資料が保存されている。第二の役割は、広報のための資料整備である。マスコミや出版社、生涯学習施設等からのすばるに関連した画像提供の依頼が多く、画像を中心として、その他にも広く広報普及活動への対応を効果的に効率よく進めるための資料を整備する必要があった。

上述の第一、第二の役割から出発した経緯があり、資料は頻繁に利用される環境にある。従って、三菱電機や富士通の技術資料は、印刷物を収納棚から手にとって利用し易いように並べられており、また三菱資料は電子データ化されて台内からはネットワーク経由で閲覧可能となっている（ハワイからも望遠鏡のメンテナンス作業に役立つように検索が可能である）。更に、広報に関連した台外からの依頼に応えるために、すばる望遠鏡の画像やすばるの観測で得られた天体画像を提供し易いように整理している。このような資料室のスタイルは、他の共同利用機関において、資料を段ボール箱に保存して目録を整備し、資料を電子データ化して検索するという方法とはかなり異なったスタイルを取っていることになる。

4. 「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」プロジェクトへの参加とその中間成果

2007年以後、総研大プロジェクト「共同利用機関の歴史とアーカイブズ」の活動に参加するようになり、すばる資料室は第三の役割を持ち始めた。それは、すばる建設に関わる歴史資料を収集、整理し、また、

国立天文台の歴史の中ですばる望遠鏡の建設とその研究活動を位置づけるという役割である。歴史の観点から資料を調査するという新たな役割が加わった。その活動として以下のような資料の収集と整理が挙げられる。

- a) 全国の大学及び研究機関の研究者によるすばる計画推進活動の記録（光天連会報）
- b) すばる計画推進に関わる国内外で開催された研究会の収録
- c) すばる建設のための技術検討会の記録及び検討資料
- d) すばる建設における技術検討結果を基に書かれた技術論文
- e) すばる計画に関連する国立天文台内の委員会資料及び議事録
- f) 概算要求関連の資料 等

現在これらの資料を基に、すばる建設年表の作成を始めている。